

## 第2回四万十市子ども・子育て検討会での意見交換内容（報告）

## 1 実施状況

日 時 平成30年11月26日（月） 18：30～20：00  
場 所 市立文化センター 大会議室  
参加者 14団体24名

## 2 意見交換内容

## (1) 「ファミリーサポートセンターの実施」について

## 【当日の説明内容】

平成31年度からファミリーサポートセンター（以下「ファミサポ」という。）事業を実施する。

対象者は、援助会員が市内在住の20歳以上、依頼会員は市内在住・在勤で生後6か月から小学生の子供を養育している方。活動内容は、一時的な預かりや保育所等への送迎など、病児も受け入れる予定。預かりの場所は自宅のほか公共施設や量販店など。使用料は通常1時間600円で休日や夜間は100円増し。ひとり親などは半額の助成を行う。キャンセル料は前日までなら無料、当日は半額。無断なら全額。

ファミサポの事務所は児童館の一室を予定。開所時間は市役所と同じで行く予定。運營業務は委託を予定し、アドバイザーは2名+αを求める。

## 【主な質問・意見（括弧書きは後日の協議で変更した内容）】

## 《センター・事務局体制などについて》

- ① 夜間など開所時間以外に何かあった場合はどのような対応になるか。  
⇒センターで携帯を持ち転送で対応する。重大な事故でない限りはメール等も活用する。
- ② センター開所時間帯は仕事で行けない。夕方や土日も対応してほしい  
⇒検討する。（土曜日は開所日とし、開所時間を9時～18時と変更）
- ③ アドバイザーは何か資格のある方か。ケアマネや保健師、保育士など、子どもの心理が理解できる専門的な方を配置すればよいと思うが。  
⇒委託先については社福法人やNPO法人を考えており、一定の専門的な知識はあると考えているが、アドバイザーに資格は求めない。

## 《援助会員について》

- ④ 援助会員は定年退職された方など高齢の方が想定されるが、健康かどうかの判断はどのような形で証明していくのか。  
⇒申込の段階で面談を行う。高齢でも出来る援助はあると思っている。それぞれ得意な部分があると思うので、家での預かりは無理でも送迎だけなら出来る、車は運転できないが自宅での預かりは出来るなど、手を挙げてくれる人はできるだけ登録するように考えている。

- ⑤ 援助会員は誰でもということだが、軽度でも認知症があったり、足が悪くて子供に追いつけないなど、チェック項目を作って、出来ること出来ないことをセンターで判断して適切なマッチングをしてほしい。  
⇒明確になっていない部分もあるが、どなたでも良いということにはしない。面談の中でしっかり見ていく。チェックシートも作る。
- ⑥ 面談で信頼できても、その家族に心配なことがあったり、密室になった場合に不安がある。面談で家の状況も把握できるようにしてほしい。  
⇒面談の中では家族構成も含めてお話をお伺いしたいと思う。
- ⑦ 援助会員が、当日預かりの寸前に病気で預かれないという時はどうフォローしていくのか。保護者は急に断られても困る。  
⇒センターが責任をもって次の方を紹介しないといけませんが、直前になってどの位の時間で見つけれられるかは現時点では言えない。
- ⑧ 病児対応について、保育所の場合は看護師が必要だが、援助会員は資格がなくても研修を受けたら預かることができるのか。  
⇒資格については問わない。感染症や程度が重い場合は預かれない。事前に医療機関で預けて良いのかの判断をしていただく。当初の研修だけではなく、スキルアップ研修で専門的な研修も実施する。
- ⑨ 研修を受けていても、資格のない方に預けるのは不安。自宅の場合、閉鎖的な場所で1対1で見てもらうのは、子どもは何があったか言えないところが心配。人が居る児童館やぼっぼ等だと安心する。  
⇒預かりは援助会員の自宅が国の決まりだったが、援助会員もハードルが高い、お願いする方も心配があるということで、公共施設も構わないということになった。夕方以降も利用できる場所など、民間事業者を含め協力依頼をしている。積極的に活用したい。
- ⑩ 援助会員の登録に最低何人というのがあると思うが、四万十市では何人あれば事業ができるというのはあるか。  
⇒補助事業を使う関係もあり、両方合わせて50人以上は必要。依頼会員ばかり多くて援助会員が少ないと制度として成り立たない。援助会員が30名位はいないと成り立たないと考えている。講習会を年3回ほど行い、少しでも登録者を増やしたい。
- ⑪ マッチングは1人対1人なのか。  
⇒完全に1人対1人。1人の援助会員が複数の依頼会員の担当になることはあるが、同時には活動できないので先着順になる。  
**(援助会員数が確保できれば、2人の援助会員とマッチングする)**
- ⑫ 預ける側としては援助会員の自宅が子どもが居る場所として適しているか心配になる。事前の打合せで見せていただけるとしてほしい。  
⇒自宅以外でも預かれるが、その場所が使えない場合は自宅を使うことになる。顔合わせで自宅の状況も確認し、場合によっては自宅は使わないという選択肢もある。最初の顔合わせは必ず自宅で行う。

- ⑬ 密室の心配は当然で、簡単に聞けるものではない。喫煙の問題もある。保護者は直接は聞きにくいがアドバイザーなら立場として確認できるので、事務局の方で対応をしてもらいたい。  
⇒援助会員をどのようにチェックするのかは、チェックシートを作り対応していく。(顔合わせにはアドバイザーも立ち会うこととした)

《その他の事項について》

- ⑭ 事業の主体は四万十市だが、委託できるとある。今は市の方が話してくれているが、委託した場合、市はすべて業者に任せるのか。  
⇒市の主体的な事業であるという事には変わりはない。補助金など経費の部分で委託の方が有利であり、マッチングに関する業務などは委託をしていくが、市は手を引いて全て任せるということではなく、市の事業であるということは認識したうえで一緒に進めていく。
- ⑮ お迎えが誰でもという訳にはいかないで、保育所との連携が必要。  
⇒お迎えは、事前に委任状を保護者に書いてもらい、ファミサポの援助会員が迎えに行くという連絡を保育所に入れてもらう。援助会員は身分証明となる名札を掲示する。関係する会員、保育所が困らないような方法を取っていきたい。
- ⑯ 子どもが大きくなって手から離れた時に他の困っている子どもを預かかってあげたいと思っているが、急に自分の子どもが風邪を引いたりして預かれなくなるのも心配。それを思うと一歩が踏み出せない。  
⇒自分の子どもの都合で預かれないという場合もあると思う。援助会員になってもらいたいが、講習会は子育てに関する知識について学べるので、登録はまだでも是非講習を受けて頂きたい。
- ⑰ この予算を保育所などに充てて、親が安心して預けられる施設を作った方が良いのではないか。託児を民間に委託するのは、予算を多く充てられないからだとは思いますが、事故の時の責任も当事者同士ということで、保護者としては安心して使うことができない。死亡事故は1件だけと聞いているが、それ以外の事故もあつたのではないか。ファミサポが始まった後もこのような関係者を集めた会議を開いて、常に改善してほしい。  
⇒保育所などの施設・制度の充実化は常に検討しているが、保育所における病児保育などは早急な実施が厳しいとの判断の下に、速やかに実施できる子育て世帯にとって良い政策は何だろうと考えた時にファミサポを優先して実施することとなった。どのような現場でも事故というのはあると思うが、大変な事例が起こらない様にするために、事務局としても十分な監視体制も取っていかないといけないし、始まった後でもPDCAによるチェックを行い、皆様にフィードバックできる形をとれるように、このような形で皆様方にお集まりいただきたいと考えている。